

## 「放浪記」から100年 林芙美子が見た直方

「私は一つ一銭のアンパンを売り歩くようになった。アンパンを売りさばいて母のそばへ籠を置くと、私はよく多賀神社へ遊びにいった。多賀さんの祭には、きまつて雨が降る。」

### ★多賀神社のたかもん★

多賀神社の祭はおくんちとよばれ、「たかもん」と露店が人々の楽しみだった。「たかもん」は小屋掛けの興業物のことでのぞきや幽霊屋敷、見世物、曲馬団などの出し物があった。露店は食べ物のほかに、ゴム管で聞く蓄音機、射的、バナナのたたき売りなどが祭を盛りたてていた。

★大正時代の直方★  
明治末から本格的に炭鉱が操業し、直方は石炭の集積地として繁栄した。昼夜石炭を若松に運搬する機関車のばい煙で町中がくすんでいた。芙美子は、このころのことは一生忘れることができないと書いている。芙美子も住んだ明神町あたりは炭鉱にも近い。炭鉱の町の、他の街とは違う独特の雰囲気は、印象深く残ったのだろう。

### ★活動写真館「開月館」★

大正3年開館。明治43年直方駅が移設し、駅前には繁盛し発展した。炭坑景気で人口が増え、活動写真の人気も沸騰した。開月館は、坑夫達の数少ない憩いの場の一つであったろう。大正4年夏には、「カチューシャ」を上映。芙美子も観たのではないかとわれている。

「ほうろくのように焼けた暑い直方の町角に、そのころカチューシャの絵看板が立つようになった。すると間もなく、頭の真中を二つに分けたカチューシャの髪が流行って来た。」

## 直方あの頃 大正3~5年

林芙美子が直方に滞在していたとされる大正4年頃、直方ではなにがあったのでしょうか。また、その年はなにが流行していたのでしょうか。

### 大正3年(1914年)

4月 直方北小学校創立(児童数 573人・8学級)  
この年、「カチューシャの唄」流行

### 大正4年(1915年)

1月 大和幼稚園設立 認可開園  
この年、電気ゴテ使用の前髪ウェーブ流行

### 大正5年(1916年)

9月 直方鉄工業組合設立  
この年、チャップリンの喜劇映画続々上映



# 文学に書かれた直方

直方をとりあげた作品を紹介します。「火野葦平の遠賀川文学」や森崎和江の「まっくら」など、炭鉱を扱った作品もあります。

〈植木地区〉 伊馬春部  
放送作家・植木小学校や鞍手  
高校の校歌を作詞  
「土手の見物人」N914チ

〈新入〉 高橋睦郎 詩人  
「十二の遠景」N913ノ  
新入の祖母の家の記憶を描く

〈直方地区〉 夢野久作 推理作家  
「犬神博士」(夢野久作全集5)918コ  
明治時代の直方を舞台にした作品

〈新町地区〉 種田山頭火 俳人  
「種田山頭火全日記第一巻」  
915夕  
昭和7年4月24日・25日に勘  
六(現在の新町あたり)に宿泊。

〈中泉地区〉 小坪哲成 作家  
「はまゆう」 N913ノ  
中泉で起こった殺人事件を扱った  
ミステリー

## はじめの一步 ~郷土資料の紹介~

直方市立図書館にある郷土関係の本を紹介していきます。  
郷土の歴史や文化に興味をもってくださいなればと思っています。  
今回は、筑豊の郷土で知っておきたい炭鉱に関する資料として、ポタ山と呼ばれた炭鉱で働く人や家族との暮らしの様子がわかる資料を3冊ご紹介。

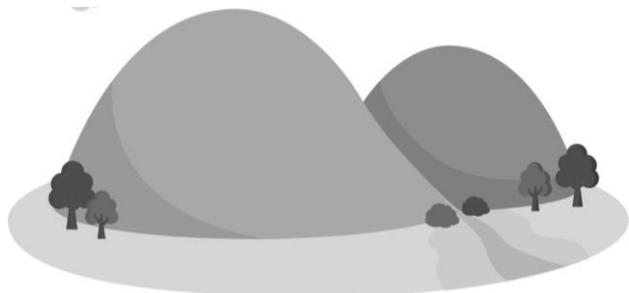
### そもそも、【炭鉱】と【炭坑】の違いとは？

【炭鉱】とは、石炭を掘り出すための鉱山のこと。

【炭坑】とは、石炭を掘り出すための穴や坑道のことをいいます。

『写真万葉録・筑豊 全10巻』  
葦書房/N567 チ

『炭鉱(ヤマ)新版』  
本橋成一/海鳥社/N748 チ  
『1973 筑豊・最後の坑夫たち』  
永吉博義・帆足昌平/集広舎/N567 チ



直方市立図書館  
直方市山部 301-1 コメニティのおがた内  
TEL 0949-25-2240 FAX 0949-23-3902  
<http://www.yumenity.jp/library/library.htm>